

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について

6月12日、筑西保健所管内の医療機関から、主にマダニに咬まれることで感染する重症熱性血小板減少症候群（以下「SFTS」という。）患者の発生届がありました。

なお、当該患者は、現在入院し治療を受けておりますが、県外への旅行歴がないため、県内に生息するマダニによる感染と考えられます。

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まるため、藪などでは肌の露出を避け、虫よけ剤を使用するなどして、マダニに咬まれないように注意してください。

【患者の概要】

- 1 年代等 60歳代 男性
- 2 推定感染地域 茨城県内
- 3 症状 発熱、筋肉痛、神経症状、腹痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、肝機能低下、腎機能低下
- 4 経過等
6/6（土） 発熱（38.6℃）、関節痛、腹痛、倦怠感出現
6/8（月） 医療機関受診
6/10（水） 症状回復せず、再受診
帰宅後、容体悪化で救急外来を受診し入院
6/12（金） 県衛生研究所による検査の結果、SFTS ウイルス遺伝子を検出
筑西保健所に発生届

プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

○ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

西日本を中心に SFTS 患者の発生が報告されておりましたが、近年では東日本でも報告されており、昨年、本県でも初の報告がありました。

原因：SFTS ウイルス

潜伏期間：6日～2週間

症状：主な初期症状は、発熱、全身倦怠感、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症例では出血傾向や意識障害を伴い、死亡することがある。日本の SFTS の **致命率は約 10～30%程度**とされている。

治療：対症療法が主だが、国内では、抗ウイルス薬（ファビピラビル）の使用が承認されている。

感染経路：主に SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染する。

SFTS を発症している動物（ペットを含む。）との接触により感染することもある。

感染予防：マダニに咬まれないよう草むらや藪などでは肌の露出を避け、忌避剤（虫よけ剤）を使用する。感染した野生動物やペット、患者の体液との接触を避ける。

感染症法：四類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は直ちに保健所に届け出が必要）

<参考>SFTS 患者発生状況

(単位：人)

年次	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
全国	78	110	118	134	122	191	65 (※1)
茨城県	0	0	0	0	0	1	1 (※2)

※1 2026年5月31日までの報告件数(速報値)。

※2 2026年6月15日までの報告件数の累計(今回の事例含む)

－ 県からのお願い －

○ 県民の皆様へ

1 マダニに咬まれないように注意しましょう

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

草むらや藪などに入る場合には、長袖・長ズボン(シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する)、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。服は、明るい色のもの(マダニを目視で確認しやすい)がおすすめです。

ディート(DEET)やイカリジン(ピカリジン)等を含む忌避剤(虫よけ剤)の併用も効果が期待されます。

2 マダニに咬まれた場合

マダニに咬まれていることに気が付いた場合、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関(皮膚科など)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関で診察を受けてください。